

平成30年度 第1回 碧南市介護保険運営協議会会議録

1 日時

平成30年8月10日（金） 午後1時30分～午後2時40分

2 場所

碧南市役所 2階 会議室1

3 出席者

(1) 委員 禰宜田知司、河原厚司、堀尾静、大田康博、水野博史、下村美幸、
沢井智美、齋藤健、永坂幸子、藤田敏江、中山修、佐藤洋一、
片山一也、磯貝靖子、高松好美、伊藤久美子、井上卓、小林清彦
(計18名)

(2) 事務局職員 健康推進部長 杉浦秀司、高齢介護課長 山田昌宏
健康課長 齋藤雅人
高齢介護課課長補佐 杉浦洋子、高齢介護課高齢福祉係長 小林圭介、
高齢介護課介護保険係長 石川 真佐紀
健康課成人保険係長 羽佐田 美和子、高齢介護課主事 久保賢起
(計8名)

4 傍聴者

0人

5 議題

- (1) 平成29年度介護保険事業の決算状況について
- (2) 平成29年度高齢者福祉事業の決算状況について
- (3) その他

6 議事録

事務局：あいさつ

会長：あいさつ

事務局：議題(1)の説明

A委員：指定権限が市になり、利用者が市に限定されるとのことであるが、利用者などに何か影響はあったか。

事務局：例えば指定権限が移行した地域密着型通所介護が市に指定が移行した際に、特に利用者への影響はなかったと認識している。

事務局：議題(2)の説明

B委員：生活支援ハウスの決算額が950万円とあるが、利用者が二人しかいない。何の費用なのか。

事務局：まず、利用者の人数は、資料にのっている2名は年度末の人数で、29年度の延べ利用者数は5名。続いて、生活支援ハウスの決算額は、碧晴会へ業務委託をしており、その費用となる。利用者一人に対してかかっている費用ではなく、この事業運営のために10名分の確保をしなければならず、それに対する部屋の確保代や人件費また、生活支援ハウスを作った時の費用なども含まれる。

B委員：特別養護老人ホームなどの施設などは、代用はできないのか。

事務局：現在は、介護の施設は多様にあるが、建設当時はそういった施設はあまりなかった。また、そういった施設は金銭面で入れないとか、満床で入れないといった事情もある。先日の松本町の火災の被災者も利用しているなど緊急時に高齢者を守る施設であるのでできる限り対象となる方には利用を促進していくが、生活支援ハウスの建設時の費用も委託料に入っているなので、利用者数からみると高いが生活支援ハウスの役割としてご理解いただきたい。

議題終了

大田康博委員：第7期ほっとプランの中の日常生活圏域ニーズ調査は、私が所属するJAGESという団体が行っており、前回調査では全国40市町村が参加、回答者数は約20万ありますので、碧南市がこの40市町村の中でどれくらいの位置にあるのかという比較や小学校区ごとの比較もできます。碧南市は、閉じこもりが少ない、地域の愛着度が高い、スポーツ系のクラブの加入率が高いという特徴があります。また、調査とは別ですが、議題報告で老人クラブの加入率も高いというお話がありました。そういった要因があるためか、碧南市の要介護認定率は40市町村中で低いほうから10番目です。また、全国の要介護認定率18パーセントと比べても碧南市は14パーセントなのでかなり低い印象を受けます。これが調査結果からえた“良い点”です。次に、気になる点は、運動機能の低下や認知症状が気になる方が多いという点、口腔機能の低下も40市町村の中では多いです。なので、こういった良い点や気になる点を40市町村や小学校区という観点で比較して対策を検討していくことがこの調査で可能かと思います。そういった分析等を通して皆様のお力になればと思います。

事務局：ほっとプラン策定御礼、次回会議案内